

ヒューマンアカデミー日本語学校神戸校

自己点検・評価報告書

(2026年1月実施)

ヒューマンアカデミー日本語学校神戸校

校長 浅井 宏純

自己点検・評価項目

《実施時期および方法、実施の体制》

実施時期：毎年1月末 年1回実施

実施方法：アンケート調査・聞き取り調査

実施責任者：校長

実施担当者：自己点検・評価委員会（体制は以下の通りである）

実施結果：毎年2月にホームページにて公開する。

課題・問題が生じた場合、自己点検・評価委員会を開催し、検討討議の上、解決する。

[点検・評価]

●教育水準の向上を図り、日本語教育機関の目的を達成するため、次に定めるところにより、活動の状況について自ら点検及び評価を行う。

- 1) 点検及び評価を行う者：本校においては、拠点長が作成した報告書は、校長に提出され監査・保管するとともに、ホームページ上で公開する。
- 2) 点検及び評価を行う時期：毎年1回、1月末に行うものとする。
- 3) 点検及び評価を行う際の資料：点検及び評価は、以下の「点検及び評価項目」に基づいて行うこととする。
- 4) 点検及び評価の結果に対する対応：報告書で不適格あるいは不十分であると指摘された項目については、できるだけ速やかに対応策を策定し、実施するものとする。
- 5) 評価は3段階評価とする。
 - A：達成している
 - B：一部未達成であるが、1年を目途に達成する
 - C：達成していない

自己点検・評価報告書は、日本語教育振興協会の「日本語教育機関のための自己点検・評価項目」を参照し、学内に設けた自己点検・評価委員会で検討し、以下の通り自己点検・評価報告書を作成した。ヒューマンアカデミー日本語学校神戸校内に、自己点検・評価報告書を作成するにあたり委員会を設け、自己点検・評価を適切に行う。委員会メンバーは以下に記載する。

ヒューマンアカデミー日本語学校神戸校 自己点検・評価委員会
令和7年12月現在

| | | |
|------|----------|-------|
| 委員長 | 校長 | 浅井 宏純 |
| 副委員長 | 副校長兼事務局長 | 宇賀 幸代 |
| 委員 | 学務責任者 | 古谷 和也 |
| 委員 | 主任 | 三枝 広明 |
| 委員 | 学生募集責任者 | 益田 隆志 |
| 委員 | 教育顧問 | 辻 和子 |
| 委員 | 教学室 | 安井 亮太 |

日本語教育機関の基本理念、目的及び目標

1. 趣旨

今後人口減少の一途を辿る日本の国力維持と更なる成長に資することを大命題とし、日本の経済・社会を共に支える外国人人材を育成する。世界平和につながる人材を育てることにより、豊かな「共生社会」の構築を目指す。

学習者の持つニーズに応えつつ、日本人と外国人がともに生きていく「共生社会」の創生に向け、学習者が社会の一員としての意識をもち、他者とともによりよい社会を築こうとする力とコミュニケーション力を、日本語教育を通して育成する。

日本語教育にあたっては、学習者を社会的存在として捉え、学習者の持つ複言語・複文化を尊重し、その多様性を生かし、言語を使って社会で活動する力を育てる。

さらに「世界をつなぎ、世界を創る」地球市民としての意識を持ち、世界の国々の人々が安心、安全に生きることができる「共生社会」の創生に資する人材の育成を目指す。

2. 教育理念、目的及び目標

- (1) 学習者を社会的存在として捉え、社会で活躍する人材を育てる
- (2) 新しい「共生社会」を創成し、国際社会をリードする人材を育てる。
- (3) 学習者が自立的・自律的・主体的に学ぶ力、学び続ける力を育てる。
- (4) 学習者の「できる」力を育てることを目標とし、目標は Cando で示す。
- (5) 学習者が一人ひとり複言語・複文化を持つことを前提に、
学習者の多様性を認め、理解し、個々の学習を支援する。
- (6) 授業は行動中心アプローチの考え方により進め、学習者の5つの言語能力を育成する。
- (7) 学習成果は「できる」ことで評価し、CEFR/日本語教育の参照枠の言語能力レベルで示す。
卒業時の日本語力の到達目標は B2 レベルとする。
- (8) 社会人として必要な発想力、思考力、創造力、問題発見・解決力を育てる。
- (9) 日本文化やマナーを理解し日本語の特色である「他者を尊重するコミュニケーション力」を育てる。
- (10) 他者とともに生きることを意識させ、地域・社会とつながる力を育てる。
- (11) 学習者の求める進路目標の実現を支援する。

●点検及び評価項目

| 〈評価項目〉 | 〈評価〉 |
|---|------|
| 1. 教育の理念・目標と、その具体化のための方策 | |
| (1) 上記「理念」と「目標」とがお互いにどのように関連しあっているかを説明できる | A |
| 【振り返り】 国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、学習者の知識や能力だけでなく、豊かな心を育むことを目標としている。 言語運用能力の向上にとどまらず、円滑なコミュニケーション能力や多様な価値観を理解し、他者を尊重する姿勢を養うことにもつなげている。 | |
| 2. 日本語教育機関の運営 | |
| (1) 認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。 | A |
| (2) 運営の透明性が確保されている。 | A |

| | |
|---|---|
| (3) 運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。 | A |
| (4) 運営にあたり法令を遵守している。 | A |
| 【振り返り】 | |
| 組織図、職務分掌、教務規程、入学者選抜マニュアル、服務規程、個人情報保護規程などの各種規程を整備し、それらに基づいて業務の進行方法や意思決定の手順を明確にしている。これにより、特定の個人の判断に左右されることなく、組織として一貫性のある運営体制を確立している。 | |
| 3. 情報公開 | |
| (1) 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。 | A |
| (2) 募集及び納付金に関する情報を公開している。 | A |
| (3) 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。 | A |
| (4) 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。 | A |
| (5) 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。 | A |
| 【振り返り】 | |
| 教育理念や教育目標をはじめ、コース内容、授業内容、入学案内などの情報については、ホームページにおいて詳細に掲載している。一方で、募集要項については、ホームページ上でどの範囲まで公開するかについて今後検討が必要である。 また、ホームページを中心とした情報開示については、適宜内容の更新を行い、常に最新の情報を提供できるよう努めている。 | |
| 4. 入学者の募集と選考 | |
| (1) 適切な方法で入学者の募集を行っている。 | A |
| (2) 適切な方法で入学者の選考が行われている。 | A |
| 【振り返り】 | |
| 入学者の選考に関して、受け入れ後の状況を踏まえながら定期的な確認を行い、選考の妥当性について振り返りを実施している。しかし、進路決定率や進学・就職先の状況、トラブルの発生状況などを体系的に整理し、データとして集計・分析することで、入学選考の質をさらに高めていくことが今後の課題であると考えられる。 | |
| 5. 教育活動 | |
| (1) 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。 | A |
| (2) 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。 | A |
| (3) 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。 | A |
| 【振り返り】 | |
| 教職員間での情報共有を適切に行いながら、教育の質にばらつきが生じないようにすることが重要であると考え。そのため、必要に応じた研修の機会を確保し、教育内容や指導方法の共有を図りながら、教育の質の維持・向上に努めていく。 | |
| 6. 教職員育成 | |
| (1) 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。 | A |
| (2) 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。 | A |
| 【振り返り】 | |
| 教務分野においては、入職後の研修体制が整備されており、職員の経験や習熟度に応じた段階的な育成が行える体制が整っている。 | |

継続的かつ体系的な研修を通じて職員の資質向上を図っていくことが、今後も取り組むべき重要な課題であると考えられる。

7. 学生支援

- | | |
|---|---|
| (1) 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。 | A |
| (2) 進路指導を適切に行っている。 | A |
| (3) 安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。 | A |
| (4) 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。 | A |

【振り返り】

学習者が日本での生活や学習環境に円滑に適応できるよう、入学前オリエンテーションをはじめ、学期ごとの担任面談や生活支援を実施している。また、アルバイトに関する説明会や不動産会社による住居に関する説明会なども開催し、生活面での理解を深められるよう支援している。

加えて、日頃から学習者とのコミュニケーションを大切にし、担任を中心に状況の把握に努めながら、学習面・生活面の双方においてきめ細かなサポートを継続的に行っている。これにより、学習者が安心して学習に取り組める環境づくりを図っている。

8. 施設・設備

- | | |
|---------------------------------|---|
| (1) 語学学習に適した施設・設備である。 | A |
| (2) 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対応を行っている。 | A |

【振り返り】

学習者および職員が安心して教育活動に取り組める環境を確保するため、法令遵守の観点から事務局長を中心に定期的なコンプライアンスの確認を行っている。加えて、災害発生時に適切な対応が取れるよう、安全確保に向けた体制づくりを進めている。

9. 地域貢献・社会貢献

- | | |
|---------------------------|---|
| (1) 地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。 | B |
|---------------------------|---|

【振り返り】

地域との交流活動を通じて、地域の方々の異文化理解を深めるとともに、学習者が実践的な日本語を使用する機会の創出につなげている。こうした取り組みにより、共生社会の実現にも寄与している。今後は、企業や大学、教育関係機関との連携や交流をさらに広げ、活動の充実を図っていく。

10. 財務

- | | |
|--------------------------------|---|
| (1) 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。 | A |
|--------------------------------|---|

【振り返り】

本校の運営母体は上場企業であり、監査法人による監査を受けた有価証券報告書や決算短信が公開されていることから、社会的信用および財務状況について透明性をもって示すことが可能である。支出面においても、人件費、施設維持費、教育活動に必要な経費を適切に配分し、安定した予算管理を行っている。これらの状況を踏まえ、教育内容の質を維持・向上させながら、継続的に日本語教育を実施していくための財務基盤は十分に確保されていると判断している。

【総括】

日本語教育機関として求められる入学者選抜、在籍管理、教育活動、学生支援、施設設備、地域連携、財務状況などの各評価項目について、必要な体制および運営基盤が整備されている。これらを踏まえ、全体として安定した運営が行われており、適切に機能している状況であると判断している。